

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利
活動法人 子どもアミーゴ西東京

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

山で遊ぼう!アミーゴ自然塾

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

森林を再生するために私たちが出来ることはなにかと考えると、私たちの分野である子どもたちに自然(森林)の大切さを教えることであると考えました。しかし、山作業を行うということではなく、山でとことん遊ぶことで、自然に親しむことの楽しさを全身で感じて欲しい(実体験)と思い、今回のプロジェクトを計画しました。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

プロジェクトに賛同するボランティアを募集し、実行委員会を立ち上げる。具体的な計画を立てる中で、実行委員会のメンバー自身が協力団体のスタッフから山作業の指導を受ける。参加する子どもたちは、不自由な環境(電気や水が十分ではない環境)の中で生活するために、工夫することを余儀なくされる。山作業を手伝ったり、時には思い切り山で遊ぶことで、自分たちが生活している地球を意識し、森や自然の大切さを学ぶことになる。限られた時間と資源の中で、工夫しやり遂げることで自信を持たせ、自己肯定感をもつ大人へと成長する糧になる。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

参加者に対して事前に「親子説明会」を開催し、保護者に対してプロジェクトの主旨を理解してもらうことを大切にしました。また、説明会では親子を分けて、「親との質疑応答」と「子ども会議」を同時実施。子ども会議での議題は「自炊のメニュー」と「遊び時間で何をするか」。限られた時間と予算と道具で過ごす中、何を作り食べられるのか、どういった遊びが出来るのかを真剣に話し合います。出来る限り子どもの希望と実践力に任せます。会議で決めたことがどれだけ達成出来たか、その様子は反省会で保護者には報告。毎年、親の知らないわが子の判断力や行動力、協力し合う姿勢に保護者の方々は驚きながらも、自分の子育てを肯定する姿があります。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

今回は、身体と知的に障がいをもつ児童が参加しました。小さい子や障がいがある子に対して、毎年参加している、今年度中学3年になった男子生徒が中心になり協力サポートしていました。川遊びと山頂で日の出をみんなで見ることを計画し、参加した子どもたち全員でやり遂げることが出来ました。この経験は自然の中で、いかに自分より色々な意味で「弱い立場」の人と一緒に行動する事のむずかしさと大切さを学ぶことが出来ました。達成できたことで「やればできる」という自信と自己肯定感が生まれました。この子たちが将来大人になった時に、自然にも、他者にも優しい気持ちを持ち、困った時には考え、工夫して壁を乗り越える大人に成長して行けるだろうと、実感出来るプロジェクトでした。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし